



まちなかを子ども笑顔いっぱいのまちにする！

「中学生と大人が語り合うトーク・フォークダンス」&

「子どもたちのために地域ができること厳選100を考えよう！」暮らしデザイン懇談会
開催レポート

下校中のにぎやかな声、元気に走り回る姿を見るとこちらも笑顔になり元気をもらえるような気持ちになりませんか。健やかな子どもたちの姿はまちの宝です。その一方でまちなかでは少子化の進行も顕著で、子ども不在の自治会はこの10年で3から7に増加しています。

子どもたちの成長を見守り、子どもたち自身も住心地が良いと思える地域をめざして、2つの意見交流の場を開きました。



暮らしデザイン懇談会でのグループワーク

☆トーク・フォークダンス（9月9日）

フォークダンスといえば、踊り手が2重の円を作り、相手を変えながらダンスをします。この対話版として、長浜西中学生20人がまちなか住民34人とリレー形式で対話を行いました。

コーディネーターの西川正（NPOハズオン埼玉）さんからのお題について1対1で対話し、1分で交替。「千切りキャベツの気持ち」からはじまり「今、悩んでいること、不安に思っていること」「大人になってよかったこと・大人のずるいところ」「幸せには何が必要」など、工夫されたテーマに、中学生と大人の間で真剣な話が交わされていました。

終了後、振り返りのアンケートで中学生からも大人からも挙がった意見は『大人と子どもとの意見交換、交流の場をもっと増やしてほしい』というもの。コミュニケーションの機会が増えるだけで、お互いが身近になり理解が深まることが分かりました。



トーク・フォークダンスで交流

☆暮らしデザイン懇談会（9月29日）

トークフォークダンスのアンケートなどを参考に、「子どもたちのWell-being（良い状態）から、地域ができること厳選100を考えよう！」との目標を掲げて実施したのがこちら。

子どもの育ちについて、県や市、地域の立場で取り組む4人が各々の取り組みを紹介。続いて、参加者31人が5人程度のグループとなって意見を出し合う時間。

『明日から個人やみんなでできること』『時間がかかるけど個人やみんなでできること』という形で、時間とアクションの規模でアイデアを出し合いました。参加者には、トークフォークダンスにも参加してくれていた中学生も。集まったアイデアは以下の通りです。改めて「It takes a village to raise a child.（子ども一人が育つには、一つの村が必要だ）」を念頭に、私たち（個人や地域）には、こうしたアイデアの実践に取り組んでいきたいと考えます。

意見出しより（個人、地域でのアイデア出しから）

明日から個人やみんなでできる活動や居場所

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| ・見守り | ・名前を聞く | ・子ども食堂をやる |
| ・声かけ、あいさつ | ・高齢者との交流 | ・長浜について知る |
| ・お互いをほめる | ・夢を語る | ・地域探索 |
| ・笑顔をつくる | ・トークフォークダンス | ・居場所づくり |
| ・スクールガード | ・健康プロジェクト | ・カラム大会 |

時間はかかるが個人やみんなでできる活動や居場所

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| ・子ども会議 | ・昔の写真展 | ・生きる知恵を学ぶ |
| ・子ども居場所フェア | ・ウォークラリー大会 | ・子ども食堂の常設 |
| ・おもちゃ病院 | ・交流の場づくり | ・地域を知ること |
| ・学校以外の学校 | ・仮装大会 | ・ICTの活用 |
| ・豊公園のゴミ拾い | ・オンライン交流会 | ・さつまいも起こし |



長浜小学校合唱団によるオープニングコンサート



伊吹高等学校書道部による落款パフォーマンス

まちなかの フェスタで見つかる はじける笑顔！

2023長浜まちなかフェスタ

ご来場ありがとうございました！

10月29日（日）さざなみタウンで開催したまちなかフェスタは、約5000人が来場、さまざまなイベントを楽しんでいただきました。まちなかフェスタは、近隣住民、各種団体、行政、学校などさまざまな組織が一体となって作り上げた、まさにまちなかを代表する地域行事です。

今回も300人近くがスタッフとして運営に携わっていただきました。関わってくださった皆さんにも改めてお礼申し上げます。





私たちと“まち”との新しい関わり方を考え、
実践しましょう！

「みんなでつなげる編みもののアート」参加者募集

カラフルな毛糸を使って、まちなみを彩りと温かみで飾る
ストリートアート「ヤーン・ボミング」にチャレンジします。
みんなの編みもので、さざなみタウン周辺を飾って“あった
かく”しませんか？

ステップ1) つなげる編みものを集める

○編みものの作品募集

木々を飾る編みものの作品を募集します。

募集作品：幅35cm以内、長さ200cm以内 ※作品の返却不可
(マフラー、ボンボン、ひも、四角、変形なんでもOK)

募集期間：12月7日(木)～1月31日(水)

作品受付：さざなみタウン1階受付

○はじめての編みもののワークショップ開催

編みものを基本から学びます。1回のみでの参加もOKです。

日時：12月7日(木)もしくは1月10日(水)

のいずれも10～12時or14～16時

講師：山岡陽子さん 会場：すべてさざなみタウン内

ステップ2) 編みものをつなげる

○みんなの編みものを、飾り付けるためにつなぎ合わせるワーク
ショップ開催。

日時：1月25日(木) 10～12時／2月1日(木) 13～15時

会場：長浜まちづくりセンター 申込・持ちもの不用

ステップ3) 編みもので木を飾る

○つないだみんなの編みものをさざなみタウン南側駐車場の樹木
に飾るワークショップ開催

日時：2月3日(土) 10～12時頃

会場：さざなみタウン 申込・持ちもの不用

木々を飾る期間 2024年2月3日(土)～3月3日(日)

▷この期間中にさざなみタウン内でこんなイベントがあります。

- ・「みんなでつながる広場」2月25日(日)
- ・「つくる未来展」2月23日(金)～25日(日)

申込・問合せ

ながはま市民協働センター
(0749-65-6525)

詳しくはこちらから→



米川治水 県へ要望書提出

米川は、密集市街地を流れ、住家が迫る狭い河川のため、護岸のかさ上げや大掛かりな浚渫工事が難しく、たびたび氾濫を起こしてきました。そのため平成29年に県、長浜市、地元で構成する「米川治水対策連絡協議会」を発足、遊水地、分岐施設の検討のほか、止水板の設置、浚せつが進められてきました。しかし今年8月1日、集中豪雨による止水板からの越水で一部被害が生じたことを踏まえ、地域の実情を伝えるため10月県へ登庁。連合区長や市議員など15人が副知事、土木交通部長らに要望書を提出しました。内容は以下の通りです。

1 米川の治水対策の推進

- 1) 抜本的な対策(遊水地の整備など)の早期完成
- 2) 堆積土砂の計画的、定期的な浚せつとともに、危険個所の護岸補修
- 3) 地元が行う河川清掃への協力、また地元では対応が困難な河口部などへの県による河川清掃
- 4) 米川治水対策連絡協議会を適時開催し相互の理解を深めるとともに、タイムリーな情報提供
- 5) 洪水時における緊急対応の迅速化・強化

2 米川の利活用の推進

- 1) 河川の利活用に向けた検討の場・機会の提供
例：バープエによる河川再生、水上デッキや楽しめる道（踏み石・飛び石など）の設置など
- 2) 県事業としての利活用策の検討
米川の再生に向けた検討をはじめ、歴史的文化的な河川景観の保全対策の推進



江島宏治副知事（写真中央）へ要望書を提出する辻正明長浜まちなか地域づくり連合会会長（同左）と中村義孝長浜まちなか連合自治会会長（右）

避難所設営体験学習会を開催

11月5日（日）午前9時から、長浜北小学校体育館で防災訓練の一環として避難所設営体験学習会を実施しました。

当地域づくり連合会が主催、長浜市防災危機管理局、長浜市社会福祉協議会、湖北地域消防本部、長浜市消防団第一分団、長浜北小学校が協力。



担架避難について学ぶ参加者

参加者は、まちなか79自治会の役員など約160人。こうした訓練の場合、男性の顔ぶれが多いものの、災害時には男女の役割が共に求められることを大切に、積極的に女性参加を呼びかけ、30人の参加がありました。

まず、市防災危機管理局が防災全般について説明し、続いて具体的な対応策を体験。①段ボール間仕切り・ベッド・トイレの設営、②車椅子避難訓練、③担架避難訓練、④応急手当講習、⑤防災倉庫備品見学、⑥防災クイズの6コーナーそれぞれで、具体的な講習を受けました。

先立って10月1日には、災害時にみんなで適切な行動ができるよう、自治会長を対象に事前説明会を開催。あわせて避難者の対応を疑似的に体験するゲームHUGで、机上で避難所運営訓練を体験していただきました。